

佐藤 可英 アーティストステートメント

私は、この世界のすべてのものには、単に視覚だけでは捉えられない『なにか』が存在し、その存在の中に『記憶』とも呼べるものが残っているのではないかと考えています。

それは、ものに宿る歴史からなる記憶でもあり、空気、土地、生物や植物、地球に残る歴史から生まれてくるものなのではないかと考えます。

その記憶があるからこそ、つづいている現在がある。

絵を描いていると、五感で感じる以外のなにかを感じる時があります。私の記憶の中に「その記憶」が埋め込まれてくる感じがします。記憶の中に音が聞こえ、旋律が流れ、五感すべてに響くリズムの様なものを私は感じます。

物質的に絵画には音や響きはないけれど、そのリズムの様なものを貌ある絵画としてどのように表現するかを意識して制作しています。

「そこに存在する空気」を二次元に表現し、過去、現在、そこにある記憶を捉え、目に見える自然現象とその現象の背後にあるものをも探求し、作品にしたい。

今私が取り組んでいる虫のシリーズも、虫たちやその生きる自然界にあるひとつひとつのものの形の中にも、視覚的には見えない歴史が様々な記憶として埋め込まれ、その記憶と存在は、形や文様、動きの中からも捉えられると考えています。

小さな虫の存在は、とても長い歴史を持ち、その生きる力強さと、そしてそこに存在する歴史の記憶を私たちに呼び起こさせてくれる。そう感じて取り組んでいる虫や蝶と、それを取り巻く自然界は私にとって魅力ある、ひとつのテーマです。

そしてそれを可能にするものが、自分には宇宙の誕生からの歴史を内在する鉱物由来の日本画の材料であり、繊細な表現のできる墨と日本の筆なのです。

佐藤可英